

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600258		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	埼玉県深谷市西島町2-21-11		
自己評価作成日	平成30年1月9日	評価結果市町村受理日	平成30年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成30年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅から徒歩10分弱ほどの好立地にあり、ご入居者様には職員が明るく楽しい雰囲気です。いつもご入居者様のお手伝いをさせて頂いております。運営推進会議には地域の方々やご家族様にも参加して頂き、地域との交流も図れています。地域の行事への参加や、また年間行事も立て、季節の催し事に沿った楽しい時間を過ごしていただいております。食事は全て手作りで家庭的で温かみのあるものを提供し、お祝い事にはお祝い膳を提供し、また季節の行事に沿った食事を提供することでご入居者様には季節感を味わっていただけるような工夫しております。ご入居者様のご家族様から「しらかばは良い施設だよ」と口コミでも言ってもらえるような施設づくりを目指しております。

管理者は、法人理念の他に、開設職員と共に事業所理念を考え、地域に早く溶け込みたいと考えている。平屋造りであり、バリアフリーを意識して居室から広いベランダへは、ベッドのまま移動できるように利用者本位の構造でもある。管理栄養士でもある管理者は、食を通して、その人らしさのある住まいを作ろうと考え、職員と利用者が共に仕入れから調理まで参加できるシステムに特徴がある。職員が交互に担当し、利用者から献立の意見を聞きながら、共に楽しみながらの食事となっている。深谷祭りでは、近くの会場へ利用者と共に出掛け、利用者はサンパ踊りや小学生のプラスバンドを楽しみ、出店へ立ち寄って喜んでいた。災害対策の一環として、月に一度行われる緊急時を想定した訓練では、ノロウィルス・インフルエンザ対策など、工夫が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	しらかば独自の理念を考え、職員は理念に沿って毎日のケアの実践に取り組んでいる。	開設時に、地域密着を念頭に置き、管理者と職員間で理念を考えた。ケア申し送りノートを中心に統一した介護を信条としている。ホーム会議では、法人理念を唱和し常に立ち戻ることとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事にはご利用者様、職員共に参加している。	町会には加入しており、自治会館での“いきいきサロン”へ参加している。駅近いこともあり、産業まつり(サンバ・鼓笛隊他)や七夕などへの参加もしている。開業時の内覧会では多数の近隣の方が来訪した。	開設初期でもあり、地域との交流を深めて行きたい。事業所の存在と地域での役割をも理解してもらうよう努め、防災訓練での地域交流や、ボランティアとのつながり等が出来ることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等で認知症についての勉強会を行い、説明をしながら対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議を開催し、ご家族様や区長さん等からも意見を伺い、事業所からも活動報告や現状をお伝えし、情報交換をすることでサービスの向上に努めている。	二カ月に一度実施しており、自治会・民生委員・社協・家族の参加がある。本社アンケートからの意見紹介で看取りについて説明した。自治会長からは地域の特性や活動内容の説明があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には行政機関の担当者の参加もあり情報交換をしている。	大里広域(熊谷・寄居・深谷)市町村圏であり、保険者となる。近くの市役所へは、度々相談に行っており、市主催の深谷祭りでは、利用者もステージ周りで楽しめる。事業所への理解を深めたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で統一したケアが出来るようホーム会議で話し合い、事業所全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。どうしても必要な場合はご家族様にご相談、理解を求め同意を頂いている。	職員入社時のスタートブックで、身体拘束・虐待・接遇の教育を行い、マニュアルを持つ。ホーム会議では常に取上げ、業務への慣れから生じていることがないかを話し合っている。職員研修制度でも拘束事例などから学ぶ機会を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉の虐待等全てにおいて職員間声掛けし、虐待のないよう意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在の入居者様は成年後見制度を利用されている方はおりませんが、必要に応じて成年後見制度の活用ができるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居の際は重要事項の説明を行い、ご家族様、本人の不安や疑問を尋ねご理解した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様から日々のコミュニケーションで意見や要望をお聞きし、家族が訪問に来られた際にはその状況をお伝えしている。	本社(群馬県)での家族向けアンケートを行っている。家族意見は、来訪時に伺っており、遠方の方は電話や手紙で意向を聞いている。トイレの鍵がないとの意見を受け、使用中の札を掲げる対応をした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議で気づきや意見等をお聞きし職員全体で話し合いの場を設け、反映させている。	会議で意見を受けたり、年二回の個別面談から聞いている。会議の場でオムツの当て方についての提案から、段階的手法を話し合った。また、利用者の箸が誰のか分からず、写真を掲示して効果を得た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に各自で自己評価をして頂き、今後の目標も挙げて日々の業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や技量に応じて法人内外の研修に出来る限り参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に加盟して研修会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を事前に聞き取り、職員間で共有してご本人様の安心を確保できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていること、要望等を事前に聞き取り、いつでも相談していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容をスタッフ間で検討し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意なことを活かした作業をお願いしたり、洗濯たたみやモップ掛け等の家事を一緒に行うなど、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された際には日頃の様子を伝えている。また、ご家族様と一緒に外出してもらおうなどして共に支えあい協力して支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのご友人が来訪された際にはご利用者様とゆっくりお話ができる場所を提供している。また、以前から通っていた馴染みのお店に買い物に出掛け、関係が途切れないよう努めている。	デイサービスでの友人や、家族から聞いたとことで友人が訪ねて来たりする。子供さんやお孫さんがみえて外泊する方もある。腕自慢の洋裁や針仕事をやってもらいフォローしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプやカルタ、しりとり等を楽しまれたり、発語の難しい方や身体の不自由な方には職員が調整役になって孤立せず支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在退去された方はおりませんが、サービス利用が終了してもご家族様からの相談を伺いフォローできる支援に努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各ご利用者様の日々の思いや意向を汲み取り、把握に努めている。困難な場合はご家族様からの情報も把握し検討している。	出来るだけ時間をかけて聞くようにしている。夜勤時をめぐらして話しに来る方もあり、内容は帰宅願望や年金相談など様々である。難しい方は、表情から察するが、日々の変化も多い。得た情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしぶりをご本人様やご家族様から伺い、職員間でも共有してサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や様子をケア記録に記載し現状の把握に努めている。また、体調の変化や様子も職員間で抜けのないよう申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のホーム会議でケアマネさんが中心となってモニタリングを行っている。職員間でケアの内容を検討し、統一したケアを行えるようケアプランを作成している。	三ヶ月毎の見直しとしている。ホーム会議ではカンファレンスも行い、皆の意見を取り入れている。モニタリングは申し送りノートを活用し、デマンドからニーズを得る。家族ともゆっくり説明の時間を取る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に記入し、申し送りノートも併用して情報を共有し実践への反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容にない気づきが生じた際には、職員間でその都度話し合い検討し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり推進会議等を通		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診と医療連携の訪問によって急変時でも支持が受けられる体制になっている。往診を受けていない方はご家族様の協力のもと適切な受診ができている。	訪問診療は、6名の医師が交代で月二回の来訪がある。家族対応で以前からの診療所を利用する方もある。医療連携ノートで共有し、週に一回の看護師来所がある。夜間での連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の訪問が毎週あるため、皮膚観察や体調の変化を診て頂き、体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今日まで入院された方はおりませんが、入院された際には定期的に面会に伺ったり、病院関係者との情報交換や相談を行い把握に努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はご家族様にホームとしてできることを十分に説明し、必要に応じて医師や看護師を交えてケアの方針を検討し、	入居時に、重度化指針・看取りの考え方を説明している。家族の思いが変わることも想定し、段階的な書類も通して説明して行く。看取り後の学習会は、事業所内カンファレンスの他、本社でも看取り教育を年次計画に取り入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が発生した際には速やかに看護師や管理者に報告し、連絡できる体制になっている。会社のマニュアルはあるが職員間で技量に差が生じているため定期的な訓練をやっていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。また、毎月独自の避難訓練も行っている。また、毎日夜勤者が火気関係の自主検査をチェックしている。	消防訓練を年2回実施しており、一度は消防署員が立ち会う。夜間想定も行い、地域へも声掛けしての実施である。月に一度は緊急時を想定した各種の訓練(ノロ対策・水害・嘔吐処理他)を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けやケアに職員全員で努めている。	個人情報管理やプライバシー保護については、本社教育資料に基づき実施。排泄時での声掛けや、トイレでのパッド装着についてもプライバシーを守りながらのフォローを行う。スタートブックを教材として。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の思いや希望を出せる時間を作り、自己決定できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に、希望や体調に配慮して1日1日を過ごして頂けるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣服を自己決定して頂き、その日の気候や季節に相応しい衣服を着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な献立を作成し、ご利用者様にも好きなメニューをお聞きし提供している。盛り付けや準備、片付けなども一緒に行っている。また、行事食も提供し、季節感を味わって頂けるよう努めている。	職員が仕込みから調理まで行っている。利用者も盛付けやテーブル拭きを手伝ってくれる。食事前の手指消毒を担当する利用者もある。イベント食では季節を感じてもらい、窓の外景色から四季も話し合う。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を確認、把握して適量を提供している。水分量は1日を通じて最低1ℓは確保出来るよう測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアをして頂いている。やり方が分からない方には説明や一部介助をし、また		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けを行っている。オムツの方は漏れないような当て方を工夫し、使用を減らせるよう努めている。	排泄チェック表から、それぞれのリズムが分かり、共有している。排尿後に腹圧を掛けると残尿のある方が夜間の失禁が多かったことより、説明納得の上パッド使用とした。個々に合わせての排泄自立を考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に食物繊維を多く含む食材を取り入れたり、乳製品や水分の摂取に努めている。入浴時にはお腹周りのマッサージをして頂いたり、適度な運動を行うよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴出来る体制作りをしている。基本的には各自が均等に入浴できるよう曜日を設定しているが、当日対象者が体調不良や外出・外泊等で入浴出来ない際は入れ替え等をし柔軟に対応している。	週に二回の入浴としているが、夏場などは状況に合わせて増やしている。入居時に極端なお風呂嫌いだった方も1~2週間ですんなり入られるようになった。声掛け等を職員間で工夫した効果と思っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて自由に休息できるよう支援を行っている。季節に合わせて居室の温度や寝具を調整し、安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋を保管し、職員がいつでも確認できるようになっている。内服の際は日付やお名前など読み上げ確認を行い、誤薬のないよう努めている。処方の変更があった際には症状の変化の観察などに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや洗濯物たたみなどのお手伝いをして頂いている。季節ごとの行事やレクリエーションにも参加して頂き、散歩や外出なども計画して、気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者様の希望に沿って施設周辺の散歩や買い物に出掛けている。お花見や買い物ツアーなども計画し出掛けられるよう支援している。	至近の深谷駅周り・病院・商店街を散歩すると見知った方からの声掛けで話の弾むこともある。家族との外食やお出掛けもあり、希望の遠方先があれば家族と相談している。本社のバスツアーシステムを取り入れる予定でいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり金としてご家族様より頂いている。希望に応じて必要な物品を購入したり買い物などの支援をして金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様や大切な人への電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室やホール、玄関、トイレなどの清掃を行い、居心地良く過ごせるような環境美化に努めている。季節感を感じて頂けるよう季節毎に壁面や飾り付けにも工夫している。	廊下から壁面には季節に合った装飾をしている。居間のテレビ前ソファは椅子を丸く配して話しやすくしており、共用部全体にバリアフリーを配慮している。深谷のマスコット製作では、利用者にも協力してもらった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはソファを配置し気の合った利用者様同士で談笑して頂いている。畳のスペースも配置し思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ち込んで頂き、ご本人様に居心地良く過ごして頂けるよう工夫をしている。	ベッド(寝具含む)・空調機・照明・カーテンは備品であるが、他は使い慣れた家財や思い出の品を持ち込んでの方が多い。掃除は、掃除機からモップ掛けをする方もあるが、基本は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要なものや導線の妨げになるようなものは避け、安全にできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、トイレや浴室には認識しやすいように表示をしている。		